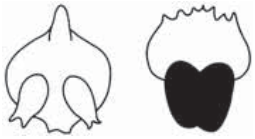
〈解答〉

1　(1)　裸子〔植物〕
(2)　①　イ　　②　エ（完答）
(3)　右図
(4)　エ
(5)　(例) 胚珠が子房に包まれている。
(6)　双子葉〔類〕

1　(3)



配点　各1点　6点満点

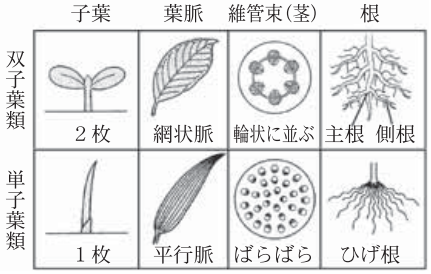
〈解説〉

1　(1)　マツやイチョウ，ソテツ，スギなどのように，子房がなくて胚珠がむき出しになっている種子植物を裸子植物という。これに対して，アブラナやエンドウ，タンポポなどのように，胚珠が子房に包まれている種子植物を被子植物という。被子植物では，受粉後に受精が行われると胚珠は種子へ，子房は果実へと成長していくが，裸子植物の花には子房がないので，種子はできるが果実はできない。

(2)　マツの若い枝においては，その最も先端部分に雌花がついていて，雌花の下の方に雄花の集まりがついている。また，雄花の集まりの少し下には昨年の雌花，種子ができている一昨年の雌花が順に見られる。なお，一昨年の雌花が種子を飛ばした後のものをまつかさという。

(3)　1図，2図において，左側は雌花のりん片，右側は雄花のりん片を表している。雄花のりん片に見られる2つのだ円状のものを花粉のうといい，その中に花粉が入っている。なお，雌花のりん片には，受粉後に成長して種子になる胚珠が2つ見られる。

(4)　花弁，おしべ，めしべ，がくの4つのつくりをすべて備えている花は，花の外側からがく→花弁→おしべ→めしべの順についている。

(5)　アブラナは，(1)の解説で述べた被子植物のなかまに属する。被子植物の胚珠は子房に包まれているので，受粉後に花が熟した後には，果実の中に種子ができる。

(6)　被子植物は，発芽のときに子葉が1枚出る単子葉類と，子葉が2枚出る双子葉類とに分けられ，これらには，それぞれ下の表のような特徴がある。